

平成22年度

九重町学力向上推進計画



九重町教育委員会

も く じ

I	平成21年度 学校教育に関する基本的な考え方	1 p
II	九重町学力向上推進計画の概要	2 p
III	児童、生徒を取り巻く環境	3 p
IV	全国学力・学習状況調査及び基礎基本の定着状況調査結果から ・国語A、国語B、算数A、算数B（中学校は数学）の結果 ・児童、生徒質問紙の結果（抜粋）	4 p～ 7 p
	大分県基礎・基本定着状況調査から ・国語、算数、数学、英語の結果 ・大分県アンケート調査結果（抜粋）	8 p～ 9 p
V	学力向上のための取組 ・推進体制の確立 ・学校の指導方法や指導体制の工夫、改善への支援 ・基礎・基本学力の定着 ・生徒指導の充実と規範意識の醸成 ・学習意欲の向上と家庭教育の確立	10 p～14 p

I 平成21年度学校教育に関する基本的な考え方

テーマ

□「基礎・基本の徹底」と「生きる力」をはぐくむ学校教育

平成18年12月に新しい教育基本法が公布、施行され、それに伴い教育関連三法や教育内容や学習事項の学年別配当、授業時間などの編成基準を示す、学習指導要領もそれぞれ改正されました。

九重町では、九重町教育行政基本方針に則り、新教育課程でも継承された「生きる力」の育成という理念を尊重し、それを支えるための「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視して学校教育の充実を図ります。

「確かな学力」を身につけるためには、「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能は体験的な理解や繰り返しの学習を行うなど、発達の段階に応じた適切な指導を工夫する中で学習の基盤を構築していくことが大切です。また、思考力・判断力・表現力を育むためには、これらの能力の礎となるべき言語の能力を更に向上させなければなりません。国語科における読み書きなどの基礎的な力を定着した上で、各教科においても言語を重視した学習活動に取り組む必要があります。

「豊かな心」「健やかな体」を育成するためには、社会生活を送る上で必要な規範意識を醸成し、基本的な生活習慣を確立しなければなりません。そのためには、家庭と学校が連携して子どもたちの道徳性を養うとともに望ましい食習慣など健康的な生活習慣を形成することが必要です。

特別支援教育については、一人ひとりに応じた支援計画を策定し、学校卒業後の進路を見据えた指導及び支援に努めるとともに保護者や関係機関との連携、特別支援教育コーディネーター、校内支援委員会の充実など、指導体制の確立を図ります。

さて、以上のような教育目標を達成させるためには生徒指導の更なる充実を図る必要があります。生徒指導では、児童・生徒の人格を尊重し、教職員との人間関係を基盤として自己実現を図っていくための指導、支援がなされなければなりません。

児童・生徒が、本当の意味で「生きる力」を育むためには、制度等の整備はもちろんですが、家庭においては、その保護者、学校においては実際に教育に携わる教職員の影響力は絶大であるといえます。

教育において国、教育委員会、学校の責任を明確にする中で九重町教育委員会としましても基礎・基本の定着と生きる力をはぐくむ学校教育の実現に向けて教育環境の整備に努めます。

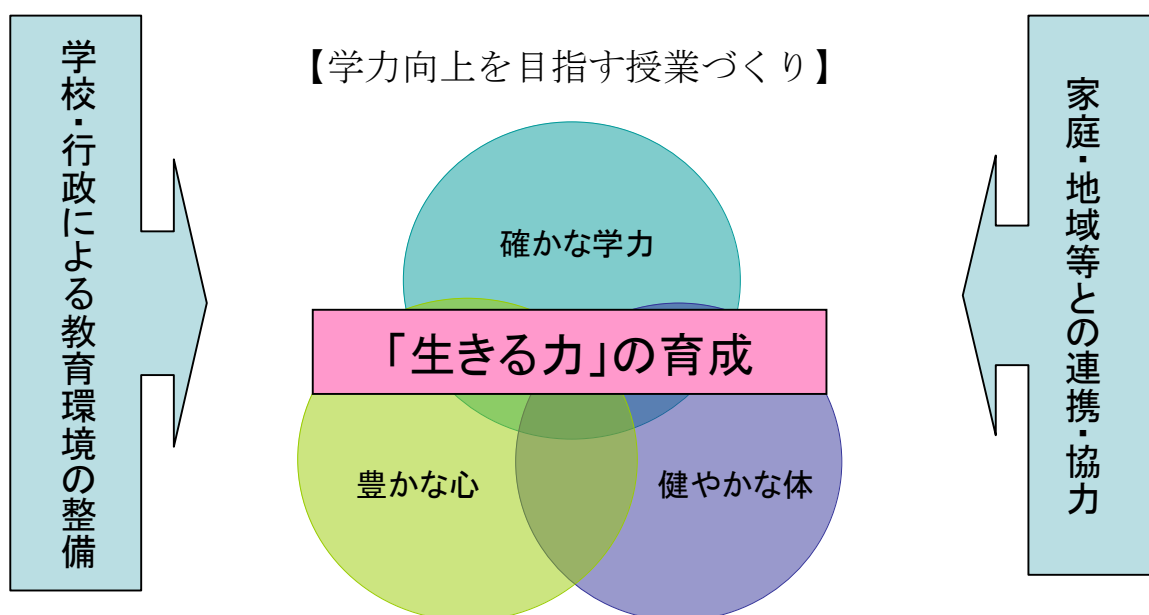
Ⅱ 九重町学力向上推進計画の概要

- ・教育基本法の改正
- ・学校教育法(教育関連三法)の改正
- ・学習指導要領の改訂

【教育目標】

郷土を愛し、「生きる力」をはぐくむ学校教育の充実

【学力向上を目指す授業づくり】



ア、「生きる力」という理念の継承
イ、基礎的・基本的な知識・技能の習得
ウ、思考力・判断力・表現力等の育成
エ、学力向上のための授業時数の確保
オ、学習意欲の向上や学習習慣の確立
カ、豊かな心や健やかな体の育成

キ、言語活動の充実
ク、理数教育の充実
ケ、伝統や文化に関する教育の充実
コ、道徳教育の充実
サ、体験活動の充実
シ、小学校段階における外国語活動の実施

☆国指定研究校
・小学校外国語活動推進事業
【東飯田小学校】
・問題を抱える子ども等の自立支援事業
【野上小学校】
☆県指定研究校
・小1プロブレム対策事業
【飯田小学校】
・理科支援員等配置・派遣事業
【南山田小学校】【淮園小学校】

Ⅲ 児童、生徒を取り巻く環境

九重町は、総面積271.41km²、人口は1万人余りの町です。本町にも平成の合併の波が押し寄せましたが、合併の道を選択せずに町民が誇りと将来の展望を持てる「自律のまちづくり」を地域住民と協働で目指しています。

さて、本町でも少子高齢化が進行しており、児童、生徒数も年々減少の傾向にあり、学校の小規模化が顕著になっています。このような中で平成21年6月に中学校の再編整備計画が策定されました。中学校は、平成25年に現在の4校を2校に統合するというもので小学校は現状の7校（分校1校を含む）を当分の間、維持すると定めています。将来的には町内中学校1校、小学校4校を目指すという考え方も示されました。中学校の再編に伴う学校経営のあり方や地域との連携の方法など早急に検討を要する事項もたくさんありますが、この再編整備計画により生徒の学習環境が更に整備され、適正規模の集団を確保することにより、「学習指導」「生徒指導」が効果的に展開され、学力の向上につながるよう努めます。

また、小学校は平成23年度から、中学校は平成24年度から改訂された学習指導要領が全面実施されます。

児童・生徒にとっては学習環境が刻々と変わり行く中で学校、家庭、地域が一体となって本計画の教育目標が達成できるように九重町教育委員会としましても計画を推進します。

平成21年10月1日現在の出生数から推計

年度	学校数			児童・生徒数			標準学級数		
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
	校	校	校	人	人	人	学級	学級	学級
21	7	4	11	476	326	802	34	12	46
22	7	4	11	438	307	745	34	12	46
23	7	4	11	442	267	709	32	12	44
24	7	4	11	419	259	678	32	12	44
25	7	2	9	426	229	655	32	9	41
26	7	2	9	422	238	660	31	9	40
27	7	2	9	437	215	652	32	9	41

※小学校数は分校を含んでいます。

※学級数は義務標準法による学級数で現在の特別支援学級を維持すると仮定しています。

IV 全国学力・学習状況調査及び基礎・基本の定着状況調査結果から

全国学力・学習状況調査は、国が全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から学力や学習状況を把握、分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に平成19年度から実施され、今年で3年目を迎えました。今年4月21日に実施された調査です。

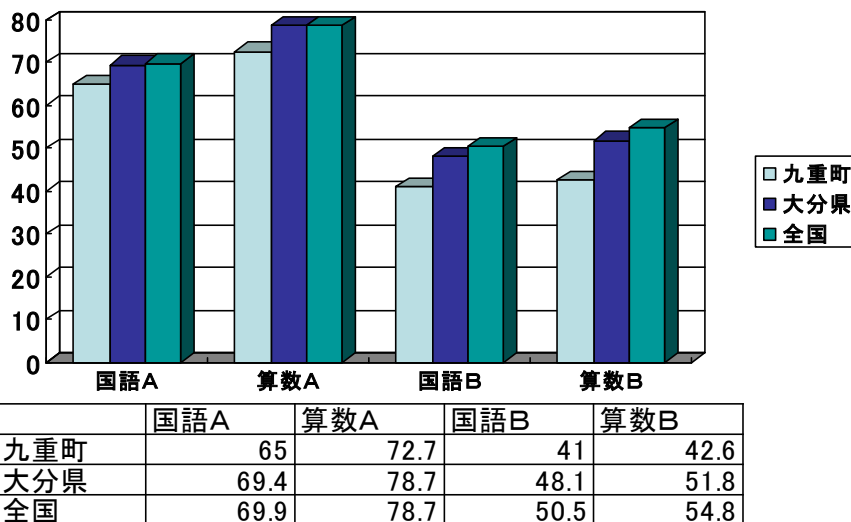
対象学年は小学校は第6学年、中学校は第3学年として調査教科は、国語A、算数A（中学では数学A）は、主に「知識」を中心とした出題となっており、国語B、算数B（中学では数学B）は、主として「活用」に関する出題となっています。また、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査も実施されました。

大分県基礎・基本定着状況調査は、同様の目的で小学校第5学年と中学校第2学年で実施されました。

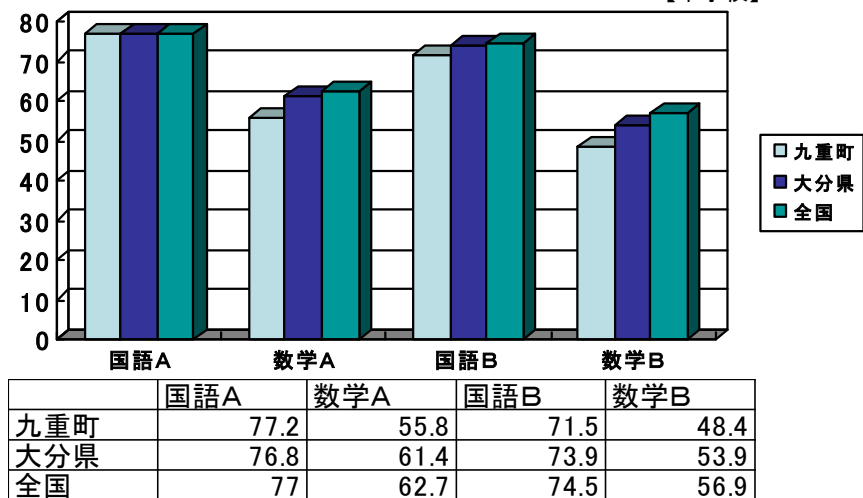
九重町教育委員会としましては、これらの調査が児童生徒が身につけるべき学力の一部であることや学校における教育活動の一側面に過ぎないという考え方にに基づき、学校や市町村間の序列化や競争意識をあおることのないように配慮しながら学習意欲の向上や教育施策の指導の改善に努めます。

(1)全国学力・学習状況調査の結果(数値は、平均正答率)

【小学校】



【中学校】



□ 全国学力・学習状況調査結果から

【小学校】

- 実施されたすべての調査教科において大分県並びに全国の平均正答率を下回っています。
- 単純に平均正答率で比較したときに「知識」に関する出題よりも「活用」に関する出題の方が全国平均値を到達目標と仮定した場合の達成率が低くなっています。

国語A：93.0%	国語B：81.2%
算数A：92.4%	算数B：77.7%
- グラフには示されていませんが、設問ごとの正答率から推測されることは次のとおりです。（ただし、学校ごとに差異がありますので教育委員会の資料による見解です。）
 - ・国語Aでは、「話す」「聞く」「読む」という設問では正答率が高く、「書く」「言語に対する知識や理解」に関する設問については、正答率が低くなっています。
 - ・国語Bでは、設問に対する正答率が低く、「読む」「理解し考えをまとめる」「書く」という力がうまく活用されていないことが示されています。
 - ・算数Aでは、足し算、引き算、掛け算、割り算のそれぞれの計算は、正答率が高くなっていますが、加減法と乗除法が組み合わせられた設問では正答率が低くなっています。また、図形や数量に関する理解度が全般的に低いことが推測されます。
 - ・算数Bでは、無解答率が高くなっています。特に「割合」や「数量の変化」についての記述式の設問ではその傾向が顕著に表れています。

【中学校】

- 実施された調査教科において国語Aは大分県並びに全国の平均正答率を上回っています。
- 単純に平均正答率で比較したときに「知識」に関する出題よりも「活用」に関する出題の方が全国平均値を到達目標と仮定した場合に達成率が低くなっています。また、設問の難易度にもよりますが数学に比べて国語の方が正答率が高く、全国平均値と比較しても微差となっています。

国語A：100.3%	国語B：96.0%
数学A：89.0%	数学B：85.1%
- グラフには示されていませんが、設問ごとの正答率から推測されることは次のとおりです。（ただし、学校ごとに差異がありますので教育委員会の資料による見解です。）
 - ・国語Aでは、全般的に高い正答率となっています。ただし、33問中の3問が漢字の書き取り、3問が読み取りの設問でしたが読み取りの正答率は3問とも全国平均以上でしたが書き取りは、3問とも全国平均を下回っていたことを考慮すると「書く」ことが苦手な生徒が多いことが推測されます。
 - ・国語Bでは、「読む」「聞く」「書く」「理解」等、平均した正答率となっています。
 - ・数学A、数学Bともに正答率が約5割くらいで全国的に低く、解答形式が記述式の場合の無解答率が高いことが目立ちます。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果(学習状況調査「児童、生徒質問紙」より)

- ・数値は、調査の中で「している。」「どちらかといえばしている。」あるいは「あてはまる。」「どちらかといえばあてはまる。」等の肯定的な回答をした児童・生徒の割合です。
- ・番号5は、3時間以上テレビ等を見ている割合
- ・番号6は、1時間以上テレビゲームをしている割合
- ・番号7は、1時間以上勉強している割合です。

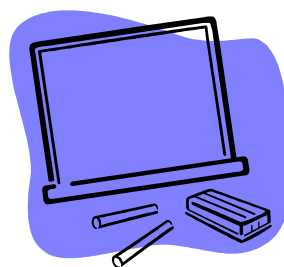
番号	質問事項	学年	九重町	大分県	全国
1	朝食を毎日食べていますか	小6	89.1	94.8	96
		中3	95.6	93.3	92.4
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小6	57.5	73.7	75.1
		中3	71	68.4	69.4
3	自分には良いところがあると思いますか	小6	58.4	73.8	74.6
		中3	45.6	61	61.2
4	将来の夢や目標を持っていますか	小6	72.3	85.3	86.3
		中3	57.9	70.5	71
5	普段(月～金曜日)1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしていますか	小6	56.4	48.5	45.7
		中3	51.7	37.1	38
6	普段(月～金曜日)1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしていますか	小6	49.6	47.4	47.8
		中3	35.2	36.3	40
7	学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか	小6	61.4	57.1	57.2
		中3	54.4	75.4	65.3
8	学習塾(家庭教師を含む)で勉強していますか	小6	28.7	41	47.6
		中3	33.3	54.1	63.3
9	家の手伝いをしていますか	小6	72.3	77.9	78.5
		中3	64.9	64.7	63
10	家で学校の宿題をしていますか	小6	95.1	95.6	95.5
		中3	93.9	88.7	83
11	家で学校の授業の予習をしていますか	小6	18.9	34	37.5
		中3	34.2	22.3	29.5
12	家で学校の授業の復習をしていますか	小6	27.7	44.9	46
		中3	47.4	48.5	40.5
13	家で苦手な教科の勉強をしていますか	小6	30.7	44.2	47.9
		中3	49.1	43.2	41.7
14	学校で好きな授業がありますか	小6	78.2	92.9	93.3
		中3	80.7	78.4	78.7
15	新聞やテレビのニュースなどに興味がありますか	小6	58.5	65.9	67.8
		中3	68.4	66.3	66.1
16	学校の決まりを守っていますか	小6	85.2	89.5	88.5
		中3	86.8	88.7	88.6
17	授業ではノートを丁寧に書いていますか	小6	61.4	73.4	73.6
		中3	82.5	82.5	85.1
18	国語の勉強は好きですか	小6	42.6	53	58.3
		中3	62.3	56.7	56.7
19	国語の勉強は大切だと思いますか	小6	79.2	89.1	90.3
		中3	83.4	88.1	87.6
20	国語の授業の内容はよく分かりますか	小6	67.3	76.5	80
		中3	72.8	67.6	68.8
21	国語の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小6	79.2	84.6	85.1
		中3	71.9	79	78.4

22	読書は好きですか	小6	72.3	70.5	71.8
		中3	71.9	65.7	67.4
23	算数（数学）の勉強は好きですか	小6	54.4	65.4	66.2
		中3	45.6	49	52.5
24	算数（数学）の勉強は大切だと思いますか	小6	83.2	91.6	91.9
		中3	75.4	77.4	77.5
25	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	小6	71.3	78.5	79.2
		中3	65.8	59	64.9
26	算数（数学）の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小6	85.2	88.3	88.2
		中3	64	66.7	65.2

○学習意欲、学習方法、学習環境及び生活の諸側面等に関する本調査は、小学校、中学校ともに同一の質問となっています。表は77項目の質問の中から26項目を抽出したものです。

○本調査のデータは、必ずしも各教科の正答率との直接の因果関係を示したものではありませんが、統計的に規則正しい生活習慣と学力とが実は、密接な関係にあるとの報告もされています。データから読み取れる内容は次のとおりです。

- ・「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童・生徒の割合がやや低くなっています。
- ・「平日3時間以上テレビ等を見ている」と答えた児童、生徒は何れも5割を超えています。
- ・一方、「平日1時間以上勉強している」の質問では、小6に比べ中3の方がその割合が低くなっています。
- ・小6・中3ともに「家で宿題をしている」と答えた児童生徒の割合は非常に高い数値となっていますが、予習や復習になるとその割合は激減しています。
- ・「学校で好きな授業がありますか」の質問では全国、大分県ではその割合が中3になると減少していますが、九重町では維持されています。
- ・「新聞やニュースに関心がありますか」では約10%、「ノートを丁寧に書いていますか」では約20%、中3の方が肯定的な回答の割合が増えています。
- ・「番号18, 19, 20」の国語の教科に関する質問では中3の方が肯定的な回答の割合が増えています。
- ・「番号23, 24, 25」の算数（数学）に関する質問では中3の方が肯定的な回答の割合が減少しています。

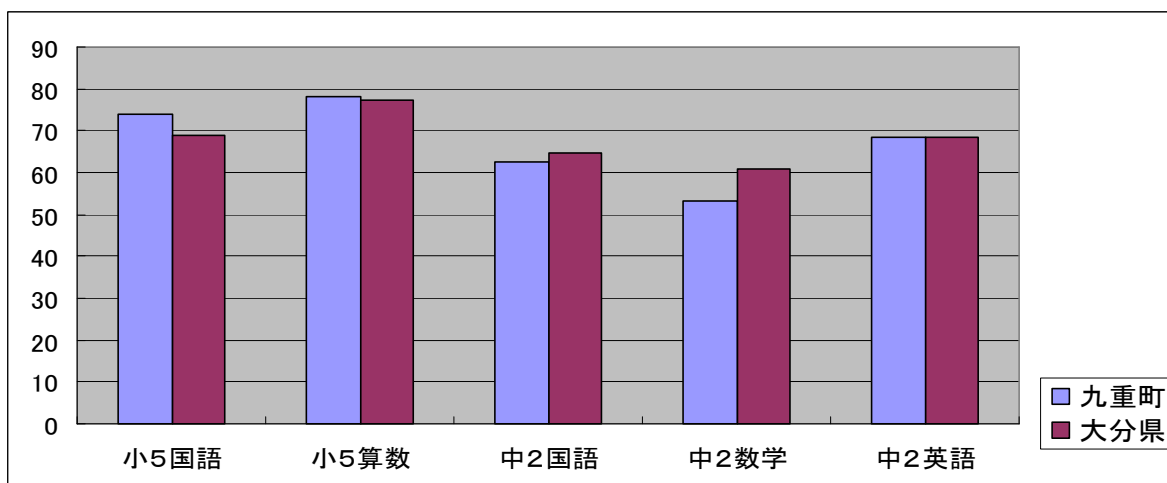


以上のような特徴が読み取れたことから次のことが推測されます。

- ◎学校や家庭での日々の生活習慣や学習活動が長期的な目標や見通しの意識を持った活動になり得ていないことが推測されます。
- ◎小6に比べ中3の方が勉強する時間が減っています。調査結果では3時間以上勉強すると答えた児童、生徒の割合も減っていますし、逆に全く勉強しないと答えた生徒の割合は増えています。このことから毎日、机に向かう或いは教科書を開くということが習慣化されていないことがうかがえます。また、宿題をしている児童、生徒の割合は何れも9割を超えていることから中3では、テスト等のために宿題が減少した分、自主的な家庭学習をすべき学年であるにもかかわらずできていないという実態が推し測れます。
- ◎小6、中3で約8割が好きで授業があると答えたことは大変素晴らしいことです。本調査の2教科に限らずに好きな授業があるということは教員と児童、生徒との信頼関係がしっかりしていることがうかがえます。
- ◎大分県教育委員会から「新聞やテレビのニュースなどに関心のある生徒は学力が高い」「ノートを丁寧に書く子どもは基礎・基本が定着している」傾向にあるとの報告がありました。因果関係は明確ではないものの中3で肯定的な回答が増えたことについて今後に期待をします。
- ◎国語の教科と算数（数学）の教科に関する回答から小6では算数が「好きだ」「大切だ」と答えた割合が高く、中3ではその傾向が反対になっています。全国、大分県でも同様の数値を示していますが、この2教科についての違いを検証し、その対策に取り組まなければなりません。

□ 大分県基礎・基本定着状況調査から

(2) 大分県基礎・基本の定着状況調査結果（数値は、平均正答率）



	小5国語	小5算数	中2国語	中2数学	中2英語
九重町	74.1	78.1	62.5	53.3	68.3
大分県	69	77.5	64.7	61	68.6

【小学校】

- ・小学校の国語、算数ともに正答率が大分県の平均を上回っています。大分県の設定した目標値（学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童生徒の割合）は、国語：69%、算数：73.1%でいずれもこの数値を上回っています。
- ・このグラフからでは読み取れませんが、調査結果によりますと国語ではすべての領域（書くこと、読むこと等）で目標値をクリアしています。ただし、設問ごとに見てみますと「漢字を読む」では高い正答率を示していますが「漢字を書く」のみ、目標値に達していません。
- ・算数では、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のすべての領域で県の設定した目標値をクリアできています。特に図形では正答率が高くなっています。

【中学校】

- ・国語は「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」で県の平均及び県の設定した目標値に達していません。
- ・数学は「数と式」「図形」「数量関係」の領域で目標に達していません。特に「文字式の表し方」「平面図形」「比例・反比例」「1次方程式の応用」では正答率が5割を割っています。
- ・英語は「長文の読み取り」がやや低い正答率となっていますがその他は、県の目標値にほぼ達しています。

【大分県アンケート調査結果より抜粋】

番号	質問事項	学 年	九重町	大分県	全国
1	朝食を毎日食べている	小5	94.2	94.8	90.3
		中2	93.5	92.3	85.8
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	小5	52.2	46.6	43.5
		中2	21.5	25.1	26
3	自分には良いところがあると思う	小5	79.7	74.3	70.1
		中2	55.1	63.3	54.7
4	将来の夢や目標を持っている	小5	92.8	89.1	84.9
		中2	62.6	68.5	84.9
8	学習塾（家庭教師を含む）で勉強している	小5	10.1	27.2	30.1
		中2	20.6	37.7	37.9
9	家の手伝いをしている	小5	75.4	77.1	80.1
		中2	62.6	62.6	64.7
10	親から言われなくても進んで勉強している	小5	68.1	61.4	57
		中2	52.3	53.2	40.1
11	勉強する時間を決めて勉強している	小5	30.4	26.7	30.6
		中2	15.9	21.4	28.5
12	テレビのニュースを見ている	小5	81.2	73.9	80
		中2	78.5	78.9	82.3
13	学校の決まりを守っている	小5	91.3	87.1	80.5
		中2	83.2	85.7	84.1
14	学校が好きだ	小5	75.4	76.8	81.3
		中2	63.6	70.1	73.6
15	勉強すれば、自分の好きな仕事につくことに役立つ	小5	84.1	82.8	82.2
		中2	81.3	81.3	77.4

V 学力向上のための取組

全国学力・学習状況調査並びに大分県基礎・基本の定着状況調査結果より国語、算数、数学、英語ともに基礎や基本を活用する力に課題が見られました。また、学習意欲がまだまだ不足していることや家庭学習などの生活習慣が定着されていない実態が明らかになりました。学力面では全国学力・学習状況調査の調査教科のうち、中学3年生の国語Aを除くすべてが、全国並びに大分県の平均正答率を下回っており、特に算数B、数学Bではその差が10ポイント前後、開いています。

これらの課題を解消するために以下のとおり学力向上に向けた取組を積極的に推進します。当面、平成24年度には、すべての調査教科において全国の平均正答率を上回ることを目標として設定します。そのためには計画の策定から見直しまでのPDCAサイクル(※1)を確立させ、定期的、日常的評価を行うことにより、常に問題意識を持ち、状況の把握と分析を行いながら各種取組の充実を図ります。

※1 PDCAサイクルとは、計画(PLAN)実施(DO)検証(CHECK)改善(ACTION)を繰り返し行い、継続的な事業の改善を目指すための仕組みのことです。

i 推進体制の確立

☆ 本計画を真に実効性のあるものにするためには、教育委員会、学校はもとより、家庭や地域との共通の理解と一体的な取組が必要です。

本計画を見守る児童生徒の学力向上のための柱として組織的、計画的、継続的に推進するために各小・中学校の学力向上担当教員で構成する連絡会議を設置し、随時、取組の評価や計画の見直しを行います。

そのためには計画推進の牽引車的な役割を果たす学力向上支援教員の配置に努めるとともにその有効活用を図ります。学力向上支援教員は、それぞれの取組についての指導や助言を行うほかに本計画が円滑に推進できるように教育委員会、学校、家庭や地域との橋渡しの役を担い、地域総ぐるみでの学力向上の取組を積極的に推進します。

①各小・中学校の学力向上担当教員で構成する連絡会議の設置

②学力向上支援教員の配置とその活用

ii 学校の指導方法や指導体制の工夫、改善への支援

☆「確かな学力」を身に付けるためには、授業の中で一人ひとりの児童、生徒が大切にされた指導方法の工夫や改善が必要です。子どもの個性や興味、関心等に応じた授業を子どもたちがどう感じているかを常に探求していかなければなりません。そのためには教員自身の授業力を高めるとともに教員間の学力向上に向けた取組に対する温度差をなくすことが重要です。

指導体制では、チーム・ティーチング、習熟度別指導等、複数の教員が指導できる少人数指導体制作りが必要ですが指導者の数の確保は教員だけを考えていくと限界があります。したがって、今後は更に地域の教育ボランティア等をどのように活用していけるかが指導体制充実のカギとなります。具体的には学校支援地域本部事業の活用です。地域の方々が学校の教育活動に関わることで規範意識やコミュニケーション能力の向上につながり、一人でも多くの地域目で見守ることできめ細やかな教育が可能になり、教員が一層、児童、生徒と関わりを深めることができます。

①学校指導支援員等による指導方法の普及促進

②九重町教育委員会において学力向上のための拠点校と協力校を指定する。

③授業力向上のための研修会への参加促進

④幼保小、小々、小中学校の連携強化の支援

⑤小学校では、教科担任制（算数、国語）の導入について検討

⑥学力向上のための各校の具体的な工夫

- ・チーム・ティーチング指導、習熟度別指導等の少人数指導体制の確立
- ・小集団の活用、学習集団作り
- ・教育課程外の時間や長期休業中の学習指導による基礎・基本の定着（チャレンジタイム、プラスワン授業、アドバンスタイム等）
- ・ゲスト・ティーチャーの活用
- ・学校支援地域本部事業、地域コーディネーターの活用
- ・学習過程において工夫した点を共有するために互見授業の実施
- ・学校開放日の授業参観（保護者や地域の方々）による情報の共有化
- ・国、県、町の実施する各種調査の分析と授業改善
- ・先進地校の視察
- ・家庭学習ノートの取組（毎日の復習）



iii 基礎・基本学力の定着

☆ 基礎・基本を活用する力に課題が見られたことにより活用する力の育成は不可欠です。児童、生徒が今後、社会で生き抜く力を身に付けるという観点からもその育成に努めます。

教育委員会としましては、思考力、判断力、表現力などをはぐくむためにはまずは、その土台となる基礎的・基本的な知識や技能の習得が必要と考えます。公教育のなすべきことは基礎的・基本的な知識や技能を習得した上で更に個々の可能性を広げる機会を提供することだと考えます。

◆ 平成24年までに全国学力・学習状況調査では全国の大分県基礎・基本定着状況調査では大分県の平均正答率を上回ることを目標とします。

①各校の図書備品の充実

②九重町教育委員会が実施する標準学力調査の充実

③各校の具体的な工夫

- ・ドリルを使った繰り返し学習
- ・書く力を身に付けるための日記指導
- ・読書活動の推進（朝読書等）
- ・ミニテスト等による自己学力の評価

iv 積極的な生徒指導と授業づくり

☆ 生徒指導というと、とかく問題行動への指導や対応という側面が強調されがちですが、これは限られた児童、生徒のみを対象とした生徒指導の一部であり、求められているのは学校教育のあらゆる場面で全ての児童や生徒に対して行われるべき積極的な指導です。それは児童、生徒一人ひとりの健全な育成を促し、自尊心を高めながら、自己確立の支援をするといったあくまで児童、生徒が主体となったものでなければなりません。

教職員が児童、生徒の良いところを見落とさないように肯定的な視点を持つことにより、子どもたちは自分の居場所を発見することができ、集団の一員として自己存在感を実感します。また、自己決定や自己責任の機会を大切に扱うことや教職員と児童生徒が共感的な関係を築くことで児童、生徒の授業に取り組む姿勢など自らを能動的に変容させようとする姿が見られるはずです。

生徒指導を活かした授業づくりとは、児童、生徒が集団の中で助け合い、お互いを理解しようとするのであたたかい人間関係が築かれ、それが意欲的な学習への取り組みにつながるものと考えます。「自分が好きだ」「やればできる」「チャレンジしてみよう」と思えるような児童、生徒の育成に向けて個に応じた指導の工夫改善を推進します。

- ①教育相談体制の充実
- ②スクールガード等の機能強化
- ③関係機関との連携体制の構築
- ④各校の具体的な取組

- ・ 班活動を取り入れた授業づくり
- ・ 児童、生徒が主体的に取り組む学習発表会の開催
- ・ 道徳教育、特別活動の充実（学級会、生徒会活動の活性化等）
- ・ 不登校、いじめ等、問題行動の未然防止のための生活アンケート調査の実施
- ・ 保護者相談の日常的開催
- ・ あいさつ・返事の励行
- ・ ノーチャイム制の実施
- ・ 清掃活動評価、徹底



Ⅴ 学習意欲の向上と家庭教育の確立

☆ 確かな学力の定着のために学習意欲の向上は、最も重要な要素と考えられます。このことを学校と家庭とがともに理解したうえで互いの役割を明確にし、それぞれの役割を果たすために責任をもって取り組んでいくこと、そして、互いの力をあわせて大きな教育力としてその力を発揮していくことが何よりも肝要です。

学校での教育と家庭教育とは、それぞれ独立して存在するものではなく、両者は一連の流れの中にあり、それらがうまく絡み合ったときにはじめて効果として表れるものだと確信しています。

規則正しい生活習慣の定着は学力向上のためのキーワードだと言えます。児童、生徒の毎日の生活リズムを作り上げていくためには、学校と家庭との連携は不可欠です。そして、起床から就寝までの時間の中に家庭学習の枠を組み入れることにより、学力は必ず向上していくものと見込まれます。家庭教育の確立のための児童、生徒と家族の粘り強い取組が期待されます。

また、社会がますます複雑多様化する中で学校も様々な問題を抱えています。家庭や地域の教育力が低下し、学校に過剰な役割が求められることのないように社会教育の分野とも更に協力して「家庭教育講座の開催」「人権学習の充実」「PTA活動の推進」等を図ります。

教育基本法の趣旨に基づき、学校、家庭、地域及び教育行政とが連携して確かな学力の定着に努めます。

以下、生活面での目標を小6、中3を目安として設定します。また、目標到達年度は、24年度としますが毎年度、目標値に近づけるように評価するものとします。目標値は小6では概ね1割、中3では2割（比較的改善の必要性が少ないものは1割）の改善割合で見込んでいます。

① 将来の夢や目標を持てる児童、生徒の育成に努めます。

質 問 事 項		平成21年度	平成24年度
将来の夢や目標をもっていますか	小6	72.3%	79.5%
	中3	57.9%	69.5%

※学習活動が長期的な目標や見通しの意識を持った取り組みとなるように指導します。

※教育活動全体を通して将来について考え、行動できるような機会を提供します。

※体験的な活動を更に充実させることにより、児童、生徒の視野や見聞を広げます。

② 家庭学習時間の確保、習慣化に努めます。

質 問 事 項		平成21年度	平成24年度
普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・D VDを見たり聞いたりしていますか（3時間以上の割合）	小6	56.4%	50.8%
	中3	51.7%	41.4%

※中学生は1日2時間以内を指導のポイントとします。

質 問 事 項		平成21年度	平成24年度
学校授業時間以外に普段1日あたりどれくらいの時間、勉 強しますか（1時間以上の割合）	小6	61.4%	67.5%
	中3	54.4%	65.3%

※小学生は、1日、学年×10分プラス10分（6年生は60分プラス10分）、中学生は、2時間～3時間を指導のポイントとします。

※宿題をする割合は高いが予習や復習ができていないのは、学習時間が短いあるいは集中した学習になっていないため効率が悪いからです。予習や復習もできるような家庭学習を目指します。

③ 基本的な学習姿勢を身に付けます。

質 問 事 項		平成21年度	平成24年度
授業ではノートを丁寧に書いていますか	小6	61.4%	67.5%
	中3	82.5%	90.7%

※ノートを整理することは、書く力を培うとともに家庭学習にもつながります。

④ 規範意識や自分の役目を果たすための責任感を醸成します。

質 問 事 項		平成21年度	平成24年度
学校の決まりを守っていますか	小6	85.2%	93.7%
	中3	86.8%	95.5%

※引き続き、学校の決まり等を守れる児童、生徒の育成に努めます。

質 問 事 項		平成21年度	平成24年度
家で手伝いをしていますか	小6	72.3%	79.5%
	中3	64.9%	77.9%

※家庭環境も異なることと思いますが、保護者に対してできるだけ家庭での役割を分担するように依頼します。